

知って防ごう！インフルエンザ



毎年多くの方が、インフルエンザに感染しています。

日本で、インフルエンザやそれに関連した病気で亡くなった人は年間1万人前後とされており、その多くは高齢者です。子どもの場合は、高熱から脱水症状や熱性けいれん、まれに急性脳症を起こすことがあります。

高齢者や免疫力の低下した人（妊娠中の人や持病がある人）がインフルエンザにかかると、肺炎などの合併症により、重症化することがあります。感染のしくみを理解して、インフルエンザの予防対策に役立てましょう。

インフルエンザの感染経路

インフルエンザの主な感染

経路は、次のとおりです。

- ・飛沫感染
感染した人のくしゃみや咳などの飛沫とともに飛び散るウイルスが、直接周囲の人の呼吸器に侵入することによって感染します。
- ・空気感染
換気の悪い部屋や乾燥した屋内では、感染した人のくしゃみや咳などの飛沫とともに飛び散るウイルスが、長時間空気中に漂います。その空気中にあるウイルスを吸い込むことによって感染します。
- ・接触感染
感染した人の飛沫に触れた手や鼻水を拭いた手から運ばれたウイルスが付着したものの（ドアノブやスイッチなど）に触れたあと、目・

鼻・口に触れると粘膜などを通じて体内に入り感染します。

インフルエンザに かからないためのポイント

- ・インフルエンザにかからないために、次のことに気をつけましょう。
 - ・流行期には、できるだけ人混みに近づかない。
 - ・人混みに出るときはマスクをする。
 - ・外出後は、手洗い・うがいの徹底を心掛ける。アルコール入りの消毒液も有効。
 - ・普段から栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておく。
 - ・毎年予防接種を受ける。

インフルエンザの 予防接種を受けましょう

感染予防・重症化予防のため、インフルエンザワクチンの予防接種を受けましょう。ワクチンは、接種してから効果が現れるまで、2週間程度かかるので、流行期（12月～3月）前に接種を済ませましょう。

感染の恐れがあるときは 早めに受診しましょう

インフルエンザの治療に使われる抗インフルエンザ薬は、発症から2日以内で効果を発揮します。感染の恐れがある場合は、早めに対応することが、早期回復のために重要です。

新型インフルエンザとは？

鳥や豚などのインフルエンザウイルスが変異し、人から人にうつる新しいインフルエンザウイルスになることがあります。これを新型インフルエンザといいます。

新型インフルエンザについては、ほとんどの人に免疫がないことから急速に感染が広がり、世界的流行（パンデミック）が起こる恐れがあります。発生した新型インフルエンザの性質が重症化を招きやすい場合は、大流行により、医療体制や社会機能、経済活動にまで影響を及ぼすことが危惧されています。

新型インフルエンザが発生・流行したときは、関連情報に注目し、正しく対処しましょう。

瀬戸内発見伝

巻之百三

瀬戸内市民病院建設に伴う 埋蔵文化財の発掘調査から

瀬戸内市民病院建て替えに伴う新しい病院建物の建設予定地は、山田庄北畑遺跡内に位置しています。

隣接する邑久町総合福祉センター（現在の瀬戸内市総合福祉センター）の建設に伴う平成4年の発掘調査の結果などから、弥生時代から平安時代の集落の存在が確認されて

いました。

今回、病院建物の建設予定地部分の大部分が周知の埋蔵文化財包蔵地内にあたるため、該当地部分約2,500平方メートルについて、平成25年4月8日から7月5日まで発掘調査を行いました。

前回までの調査から

昭和62（1987）年に県営土地改良総合整備事業に伴う確認調査が行われた時に、市道東側のトレンチ（遺跡全体の状況を探るための発掘溝）で、弥生時代後期の製塩土器を廃棄した土壙（穴）1基と中期の溝1条が検出されました。

邑久町総合福祉センター建設に伴い行った発掘調査では、弥生時代中期の竪穴住居1棟、溝4条、後期の井戸4基、製塩土器を廃棄した土壙2基などが検出されました。

この中の井戸1基から長頸壺、短頸壺、甕、高坏、鉢が多数出土しています。これらの出土土器の一部には、鋸歯文（のこぎりの歯の形をした文様）や刺突文（細い棒で突いて凹状の穴を付けた文様）、爪形文、波状文などの文様が施されていました。

今回の調査から

今回の調査では、微高地部分に形成された集落で、その北西側の縁辺部分の端部が確認されました。このほかの遺構としては、井戸16基、溝、柱穴を多数検出しました。中でも弥生時代から古墳時

代のもので考えられるこれらの井戸が一つの集落として多く確認されたことは、この集落の性質を考える上で重要な要素の一つと言えるでしょう。

井戸の大きさは、大きなものでは直径約3メートル、小さなものは直径80センチとさまざまです。また、微高地縁辺部の斜面には、破棄された土器片が大

量に堆積しており、出土した総量は34×55×150センチのコンテナケース90箱分になりました。弥生土器が大半を占めています。石器や須恵器なども少量出土しています。

ここから出土した土器には、鋸歯文や爪形文、竹管文などの文様を施したものが数多く含まれ、何らかの祭祀（祭りの儀式）用の土器の可能性があるのでないかと考えられます。

この集落だけで使用したとは考えにくいほどの非常に多くの土器片が堆積していることは、土器の生産拠点であった可能性を示唆していると言えるでしょう。

出土遺物から

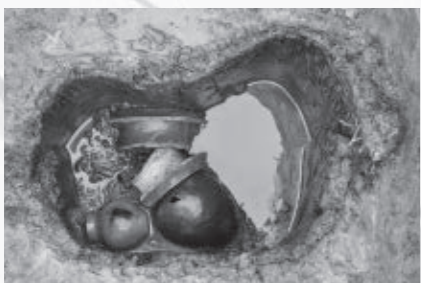
井戸の中からは、多数の弥生土器が出土しています。大半の土器は、甕、壺などです。少し変わったものでは、器台の代わりに使用したと思われる壺の口縁部分が1点出土しています。

また、井戸枠や用途不明の道具の一部、板材などの木製品も多く出土しています。

現在、出土した土器の整理・復元や一部木製品の保存処理などを行っています。これらの作業が終了した後、出土した土器、石器や木製品を公開展示していく予定です。



調査区航空写真（西から）



井戸とその底から出土した弥生土器